

首都圏中央連絡自動車道の開発に係る埋蔵文化財の発掘調査について (三)

No.390

首都圏中央連絡自動車道建設に関連した調査遺跡の「久下横穴群」の続きです。

久下横穴群は、茂原市西側をほぼ南北方向に貫く圏央道の茂原・長柄スマートICのすぐ北側で茂原街道との間の久下堰溜池脇の丘陵斜面に穿たれた横穴墳墓群です。調査されたのは二十二基です。

崖面に掘り込まれた横穴(羨道)を先に突き当り、上方への二メートル強の垂直な段差の先には、遺体の埋葬部分にあたる「玄室」があり、建物の内部を模倣した形状に掘削・造作さ



れ、建物構造の梁や垂木・長押などを表現する加工がされている例が多いとお伝えしました。

天井部分も奇棟状やアーチ状の形状で、天井・壁には、漆喰が塗られた痕跡も一部には残り、明らかに建物の内側を意識して造成していることがうかがえます。「玄室」に入ると、そこは六畳〜八畳位の広さの部屋に

いるような状態で、柱・壁・天井が見て取れます。床面には、遺体を収めた木棺を安置するための部分(棺座・棺床)が設けられ、奥壁や側壁寄りに遺体を複数安置した有力一族・家族の集



団墓だったと思われる。

横穴は比較的早い時期から開口していたため、内部は荒らされて遺体(人骨)や埋葬品は比較的少ないのですが、土器類(土師器・須恵器)、ガラス玉・琥珀玉、金銅製耳環・象嵌大刀・鉄鏃・鉄釘などが出土しています。

さて、久下横穴群は、そのほとんどが発掘調査で記録保存(資料・記録・出土物類が残ること)され、圏央道工事で現地は消滅しましたが、市内にはまだ多数の横穴が丘陵の崖面に残っています。私有地に所在するため自由に見学するには難しい状態です。見学にふさわしい遺跡が隣接の長柄町で国の史跡に指定され、玄室に線刻の

人面・鳥・五重塔状建物が刻まれた「長柄横穴群」が三十六基所在しており、一部が整備され横穴の立地・構造等が見学できます。現地はややわかりにくい場所ですが、常時見学可能で、資料館も設置されています。ぜひご覧下さい。

茂原市文化財審議会委員
加藤 正信

問合せ
生涯学習課 (9階)
☎(20)15559 FAX(20)16007

文芸コーナー

待望の春

中山 操

梅の花が咲いた
きのう一つ
きょうもまた一つ
かわいい真っ白な花が
底冷えする中で
寒風に揺られても
花びらを落とすことなく
大空に向かって咲いている
芳しい匂いを
庭一杯に満たし
名の知らぬ小鳥を引き寄せる
枝から枝へと渡る小鳥の忙しき
何と躍動的な動きだろうか
木の下で古草の合間から
いつしか顔を出したみどり
陽光の中で光り輝やいて
春もすぐ近くにいる
私の心も開く日は近い

- 偶数月は「短歌・俳句・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
 - 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名(ふりがな)・電話番号を明記してください。
- ※提出先 〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所シティプロモーション課
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

